



時事メディカル > 医療ニュース トピックス > 治療・予防 > **胸のつかえや胸焼け～診断が難しい好酸球性食道炎（国立成育医療研究センター好酸球性消化管疾患研究室 野村伊知郎室長）～**

人気記事

治療・予防

胸のつかえや胸焼け ～診断が難しい好酸球性食道炎（国立成育医療研究センター好酸球性消化管疾患研究室 野村伊知郎室長）～

食道に好酸球という白血球が集まり炎症を起こす好酸球性食道炎 (/medical/012-2025-01) (E o E) は厚生労働省の指定難病になっている。国立成育医療研究センター（東京都世田谷区）研究所好酸球性消化管疾患研究室の野村伊知郎室長は「研究が進み、治療のガイドラインも確立されていますが、この病気を知らない医師も多く、正しい診断や治療が行われていないケースがあります」と指摘する。

▽ 30～50代の男性

口から始まり大腸までつながる消化管のうち、食道にだけ炎症が起こるのがE o Eだ。野村室長は「小児から成人まで発症し、特に30～50代が目立ちます。また、女性よりも男性に多い特徴があります」と説明する。2013～17年の調査では、好酸球性消化管疾患の39%を占め、04～09年の調査の約2.5倍と確実に増加しているが、要因は不明だ。

炎症の原因は食物の刺激によると考えられ、原因食物を摂取して数時間から数日、場合によっては数カ月後に症状が出る。花粉が原因になることもあるという。炎症が繰り返されると食道が細くなり、飲み込みづらさや胸焼けなどの症状が出る。小児の場合は、胸の痛みを訴えたり嘔吐 (/medical/013-0015-99) (おうと) を繰り返したりする。

▽ 治療は長期戦

診断には、内視鏡検査 (/medical/022-2075-99)と組織を採取する生検 (/medical/011-0008-99)を行う。内視鏡画像で縦方向の筋（縦走溝）やリング状の筋（輪状溝）、白い斑点などの特徴的な所見が認められ、生検 (/medical/011-0008-99)で視野内に好酸球が15個以上確認されるとE o Eと診断される。

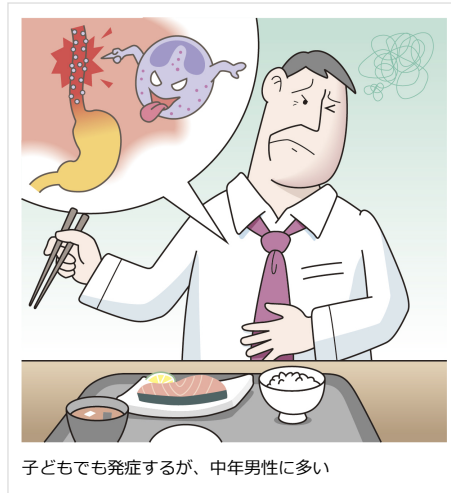
治療は、胃酸の分泌を抑制するプロトンポンプ阻害薬（PPI）を服用する。効果がなければステロイドの局所療法を行う。「吸入薬を服用して食道に付着させると、食道にのみ効果を表します。肝臓ですぐに分解されるので、副作用が非常に少ないのが特徴です」。大半はこの二つの治療で症状が落ち着く。原因となる食物除去を行うこともあるが、特定が難しい場合も少なくない。

近年、好酸球を呼び寄せる鍵となるIL-13というタンパク質を中和する薬の開発も進んでいる。同センターでは、患者向けの詳しい情報を記したウェブサイトを公開しており、治療に詳しい医師のリストも作成中という。

野村室長は「E o Eは長期管理、長期治療が必要で、中断すると再発しやすい病気です。丁寧に診察する消化器内科を受診してください」とアドバイスしている。（メディカルトリビューン＝時事）（記事の内容、医師の所属、肩書などは取材当時のものです）（了）

(2022/04/09 05:00)

【関連記事】



子どもでも発症するが、中年男性に多い



時事メディカルのSNS



最新医療ニュース

2023/05/23 19:59

全健保組合に点検要請＝マイナ保険証の誤登録問題―厚労省

2023/05/23 19:38

ネットで情報収集、5割超に＝コロナ影響で増加―高齢社会白書

2023/05/23 17:52

園児虐待で保育所に改善勧告＝再発防止策求める―東京都

2023/05/23 16:50

診療報酬巡り滝山病院に指導＝不正の有無を調査―厚労省と東京都

2023/05/23 16:06

なぜ小児科を志望？医学生への意識調査

最新連載・コラム



「えっ、そんなに報酬が低いんですか！」



サプリメントについて考える～正しい情報で判断しよう～

メニュー